

川辺川ダム環境影響評価準備レポート公聴会
公述の要旨

2024年3月5日（月）
五木村大会議室
女性（五木村）

環境影響評価準備レポートには、ダムは川辺川・球磨川の環境に大きな影響を与えない、影響は対策を取ることで回避・低減できると結論づけられているが、あまりにも環境影響を軽視しており、内容に疑問である。

流水型ダムであっても、自然の流れを阻害するものが川の中にできれば、上流も下流も甚大な影響を受けるのは明白である。

国交省の予測でも一年に一度は貯水するので、五木村の水没予定地の川や景観、地域振興施設などは大きな影響を受ける。環境影響評価の中では、施設移転や土砂などの撤去によって対処できる、影響を回避・低減できるとされているが、移転先も見通しがなく、施設移転ができてもこれまでの地域づくりの取り組みがゼロに戻るため、村にとっては大きな打撃である。土砂や流木で水没予定地は汚れ、村の最大の観光資源である川辺川の清流も美しい自然景観も永遠に失われることになり、村のブランドイメージも悪くなるが、それらについての影響は一切何も触れられていない。

五木村は、川辺川ダムによって60年近く振り回されてきた。見通しの立たないダムのために、村の暮らしも村づくりも翻弄されてきた。県からは巨額の振興予算が示されているが、予算があれば村が必ずしも振興するわけではない。

住民の願いは、ダムのような巨大事業に左右されずに、五木村が自分の力で村づくりを進め、村の暮らしが良くなっていくことである。これ以上ダムに振り回されたくない。若い世代が希望を持って、持続可能な村づくりを進めるためにも、できればダムは作ってほしくない。